【山崎名誉主宰の俳句】

おらが村

山崎　聰

植田一枚ずつの明るさみちのくへ

雲雀の野二人三人放たれて

ででむしの這いたるあとのなみだいろ

さはさりながら冷奴崩しいる

土用丑の日越後から人ひとり

終戦の日という日ありああ昭和

東京炎暑あつまってすぐ別れ

観音の森をはなれて炎天へ

柿青く水湧き出づるおらが村

飴なめている終戦の日の落日